

本時の振り返り

1 第5学年「小数のわり算を考えよう」 (11/14)

2 本時の概要

「小数のわり算」の14時間扱いの11時間目の学習である。50年前と現在の銭湯の入浴料金とタクシー初乗り運賃を比べ、どちらの方が上がり方が大きいかという問題に取り組んでいく。比較する基の金額が違うために50年前の銭湯の入浴料金やタクシーの初乗り運賃を差ではなく基にする量を1と考え、今まで学習したことを活用して倍で上がり方を調べる。

値段の上がり方が大きいのは、どちらといえますか。

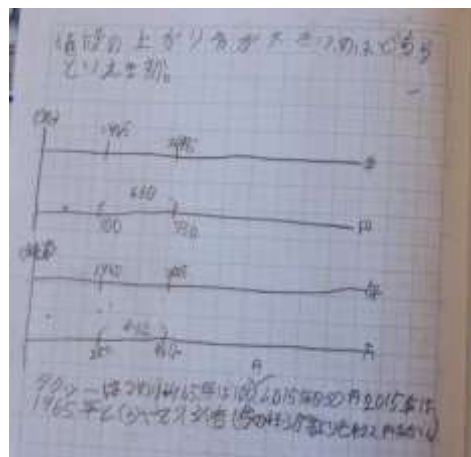
銭湯入浴料金 28円→460円

タクシー初乗り運賃 100円→730円

3 実践の振り返り

(1) 問題文について

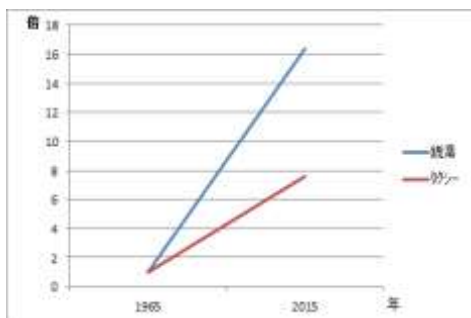
導入で、140年前・50年前・現在のはがきや電車賃、あなぱんの値段を提示した。児童は、値段が上がっていることや銭・厘といった今は使われていない単位に気が付いた。その中で、すごく値段が上がっているという声があった。どうしてそれが分かるか質問すると、電車の1区間の運賃が50年前は、10円だったものが、現在は140円になっているのを見て、14倍になっていると発言した。この時点で本時の内容が理解できてしまったかと思ったが、本時の問題になると、差で考え、差を基に数直線で表し、説明している児童もいた。問題文を考えるにあたって、差だけで分かってしまう



数値にならないような料金を比較させるようにした。そのため、始めに倍で答えた児童がいるにもかかわらず差で求める児童も出たのだと思う。理解しているように思っても同じような問題で繰り返し指導し確実な学習の定着を図ることが大切になる。また、その際に児童が関心をもつような身近なところから、問題文を提示していくことが意欲を引き出す鍵になる。

(2) 学び合いについて

児童は、今まで学習してきた数直線を使い、差や倍の説明を考えていた。また、自分の考えたものと比べながら、他の児童の説明を聞いていた。その上で、「上がり方」とは何かと疑問をもった。学習活動を通して、自分たちで考え疑問に思ったことを解決していくことが重要になる。もう少し



話し合いの時間をとり、児童の意見を取り入れた授業展開にすべきであった。また、この時間の中のどこで、「上がり方」の説明をすればよいか、どのように説明すればよいかを考え、まず視覚的に分かるように割合を折れ線グラフで表し、1からの上がり方を比較させた。このグラフについてももう少し時間をとり、差で求めた場合の児童の例と比較することに取り組むと理解が深まったと考える。

4 協議内容

よかった点

- ・導入の課題がよかった。数値もよく考えられていた。
- ・厘や銭など、昔の単位にも興味をもったことがきっかけとなり、積極的に取り組んでいた。
- ・児童の言葉や誤答をつないで考えを引き出していた。
- ・当てはめ問題が 1500 円→1530 円と、120 円→150 円と値上がり額が同じものを取り上げたことで、差で比べるのでは不十分であることを納得させるために効果的であった。
- ・教科書では差が等しい問題を本時の問題として扱っていたが、本実践の数値の方が多様な考えが出て学習の展開に広がりがあった。



改善点

- ・大半の児童は、計算で答えを求めていたが、友達に説明するために数直線をかいていた。
- ・最後に教師が数直線を示したが、説明は児童にさせるとよかった。
- ・問題で上がり方を聞いているため、割合で答える児童と差で答える児童がいた。差で考える児童をどのように割合のよさに気付かせるべきだったか。
- ・差と倍の考え方を教師が順番を決めて説明させたが、児童に分類させるような方法を取った方がよかった。

5 指導講評 講師：吉川成夫先生

- ・問題の出し方に工夫があり大変よい。
- ・上がり方というような言葉の扱いが重要である。
- ・児童の発言に対し、きちんと説明を求める姿勢がとてもよい。
- ・数値を概数で求め、約何倍であるという考えを持たせることがよかった。児童からそのような発言が出ない場合は教師が示すことも必要である。
- ・問題を出したあとに「言葉や図や式で出してみよう」という発言がよかった。
- ・今回の課題である「差」と「倍」のどちらで求めるのかということは、どちらもありえるということになる。問題によってポイントをはっきりさせる必要がある。
- ・4年生の「変わり方調べ」の単元との関連がある課題である。棒グラフと折れ線グラフを組み合わせ、グラフ用紙にかく活動を設定してみてもどうか。50年前の100円と28円、460円と730円とを比較してみてその割合から考えさせるやり方もある。
- ・計算に困っている児童がいたが、今日取り扱った数値の計算ならば筆算、もしくは概数で考えさせることが必要である。

